

心房細動合併急性冠症候群患者における抗血栓治療後の 出血と血栓リスクに関する前向き観察研究

この研究の目的は、急性冠症候群(心筋梗塞、不安定狭心症)かつ心房細動の診断で入院され、ワルファリンあるいはアピキサバン、ダビガトラン、リバロキサバン、エドキサバンなどの抗凝固薬を使用している患者さんを対象に、抗血栓症治療の実態および出血・血栓イベントの発症について最大2年までデータ収集することです。この研究にご協力いただくことで、急性冠症候群かつ心房細動を発症された方の抗凝固・抗血栓症治療の実態および出血・血栓イベントの発症に関する様々な情報が得られ、出血・血栓イベントの予防や治療に役立つ情報が得られることが期待されます。なお、この研究は観察研究と呼ばれ、あなたの治療内容や予後を調査するもので、新たな治療を追加するものではありません。したがって、研究に参加することによる直接の利害はありません。

本研究は国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続に、倫理的観点及び科学的観点から、及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。